

第17回 健康・医療戦略参与会合 資料

2019年11月15日

神奈川県知事 黒岩祐治

前回の参与会合での提案

持続可能な「人生100歳社会」をつくるために
個人の主体的な健康管理を促す「未病コンセプト」が重要

革新的な技術を生み出し、活用する
21世紀の新たな社会の仕組みづくりが不可欠
次期の健康・医療戦略に向け次の3つの視点を提案

人を変える仕組み

行動変容を促進するインセンティブの強化

情報を活用する仕組み

データ利活用の新たな
ルールづくり

専門家が支える仕組み

「ME-BYO Conditioning
Center(仮称)」の創設

Vibrant INOCHI

一人ひとりのいのちが輝く、持続可能な長寿社会の実現に向けて



国際シンポジウム
ME-BYOサミット神奈川2019
2019.11.13 湯本富士屋ホテル
11.14 パシフィコ横浜



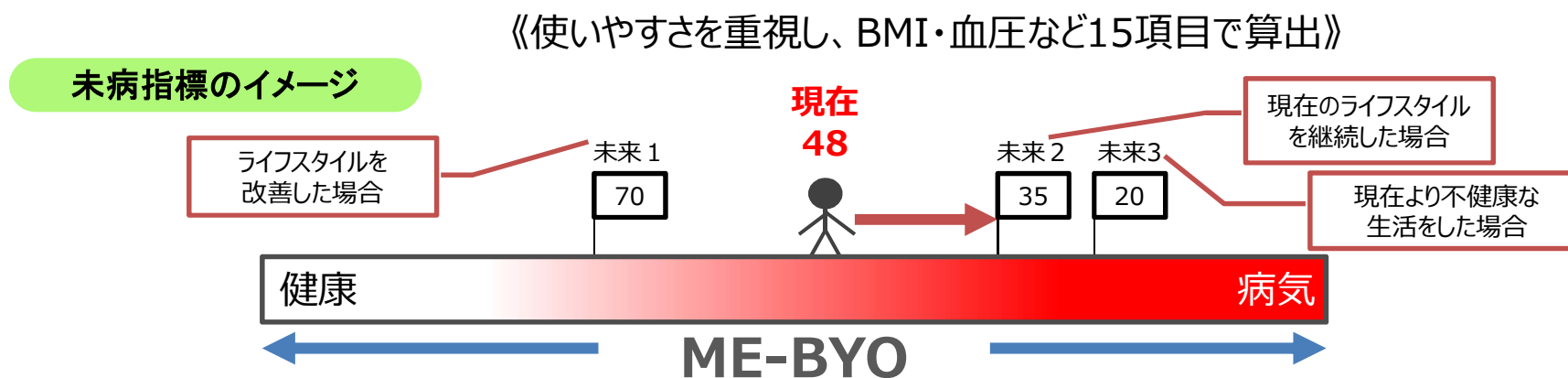
私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。
SDGs 未来都市 神奈川県

未病指標の精緻化と新たな社会の仕組みづくりを一体的に進め、
SDGs最先進県である神奈川から新しい時代を切り拓いていく

1 行動変容を促進する インセンティブの強化

本県の取組

- 個人の未病状態を見える化して行動変容を促す「未病指標」のモデルを公表
- 今年度中にマイME-BYOカルテに実装
- 施策への活用検討とあわせ、指標の精緻化を進める

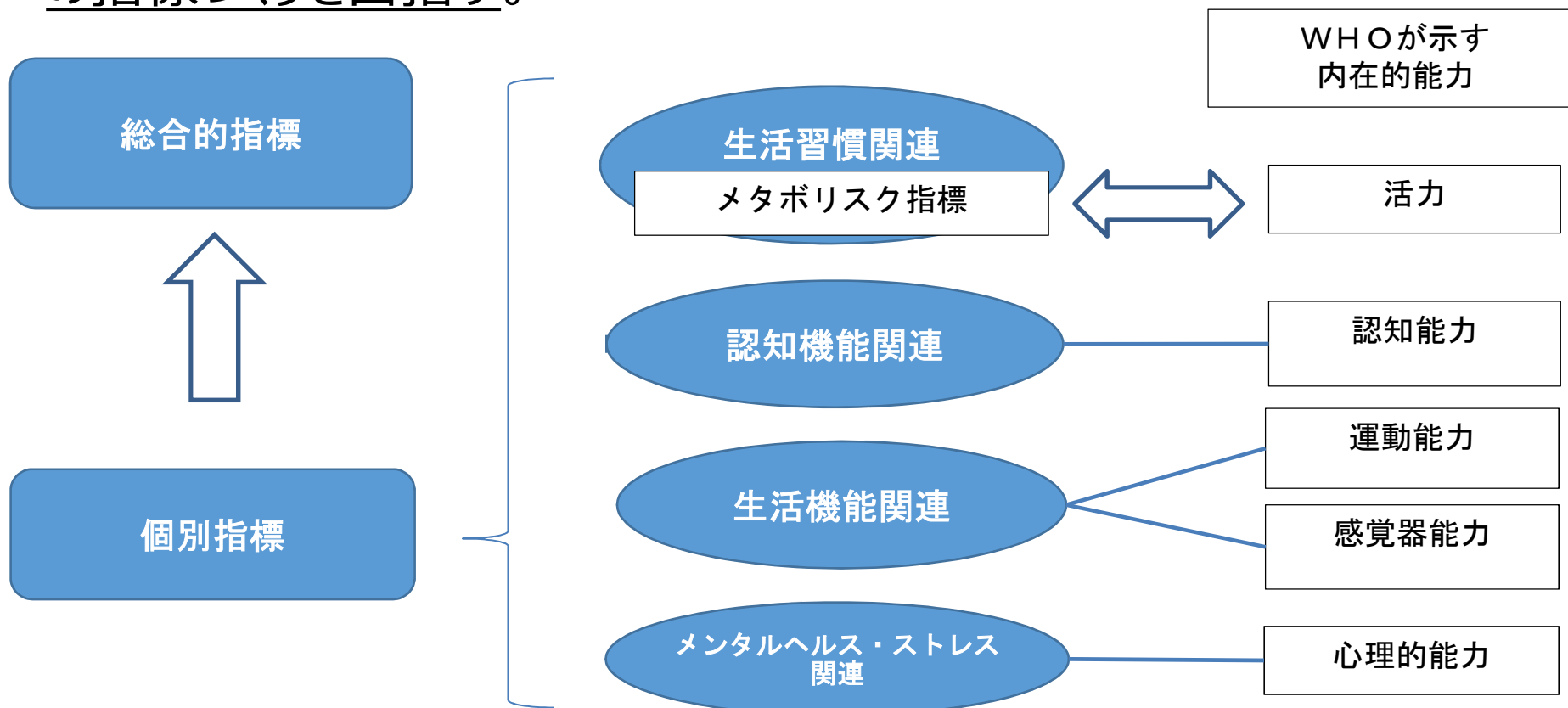


課題

- 未病改善の行動変容を促進するインセンティブの社会システム化

(参考) 未病指標の検討

○ WHOが検討する5つの「内在的能力 (Intrinsic Capacity)」は、県の重点領域とも整合しており、WHOと連携した国際的な枠組みでの指標づくりを目指す。



(参考) 総合的指標を算出するための測定項目

総合的指標に重要な測定項目を15項目を選定

領域	測定項目の候補 83項目	R1採用案 15項目
①生活習慣 (D1)	BMI (身長・体重)・腹囲、空腹時血糖・HbA1c・中性脂肪・総コレステロール、HDL・LDL、収縮期血圧・拡張期血圧、血色素量、AST・ALT・γ-GTP、尿糖、尿蛋白、血清クレアチニン、服薬 (血圧、血糖、脂質) 全22項目	性別 年齢 BMI (身長・体重) 血圧
②認知機能 (D2)	見当識、記憶力、計算力、言語的能力、図形的能力を含む11項目	Mini-Cog (3問) (将来的 : MIMOSYS)
③生活機能 (D3)	立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ25 (25項目の問診) の27項目	ロコモ5 (5問) 歩行速度
④メンタルヘルス・ストレス (D4)	仕事、最近の状態、周りの人に関する23項目	音声 (MIMOSYS)
	音声	

総合的指標 = 各ドメイン(D1~D4)のスコアに重み付けをして性別(Xs)・年齢(Xa)を調整

$$= \alpha \cdot D1 + \beta \cdot D2 + \gamma \cdot D3 + \delta \cdot D4 + \epsilon \cdot Xs + \zeta \cdot Xa$$

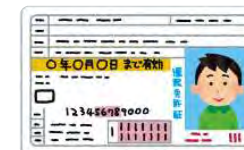
提案の具体化

行動する個人に対して

○ 個人の未病改善への努力を支援する制度の創設

✓ 未病指標で改善効果进行评估した「健康ゴールドカード」の交付

(iDeCoの増枠などメリットを検討)



✓ ヘルスケア税制として健康行動のコストを所得控除

✓ 被保険者努力支援制度の創設

未病改善に取り組む保険者(自治体・企業)に対して

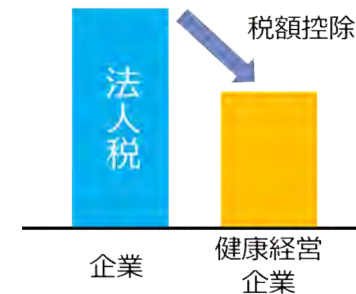
○ 住民や従業員に対して未病を改善する取組を進める保険者を

未病指標を活用して評価

✓ 保険者努力支援制度での活用

✓ 健康経営促進税制として従業員への健康投資

を法人税から控除



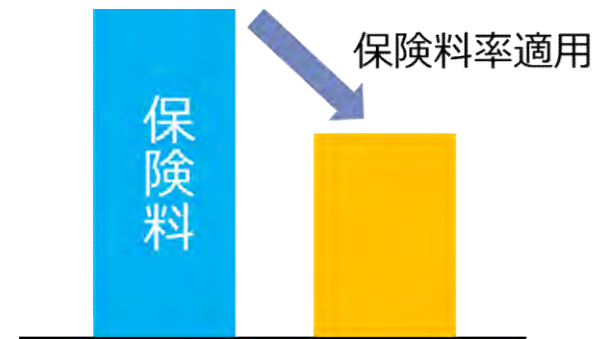
提案の具体化

商品、サービスを提供する企業に対して

- 商品・サービスの効果を未病指標で検証可能にする
 - ✓ 活用する企業に、クレディビリティを与える仕組みの検討
 - ✓ 未病指標に沿った保険料率の適用や給付を反映する保険商品の開発促進



未病指標の活用



次期計画における記載案

個人の現在の未病の状態や将来の疾病リスクを数値で示して見える化する「**未病指標**」は、個人の行動変容に効果的と考えられる。未病改善を社会の中で持続的に支える具体的なインセンティブを検討する必要がある。

2 データ利活用の新たなルールづくり

本県の取組

- 個人のライフログ^(※1)を記録するマイME-BYOカルテとマイナポータル^(※2)との連携を予定
- 将来的には、個人の健康管理だけでなく、マイME-BYOカルテに蓄積されるデータを分析して、行政施策の検討に活用

課題

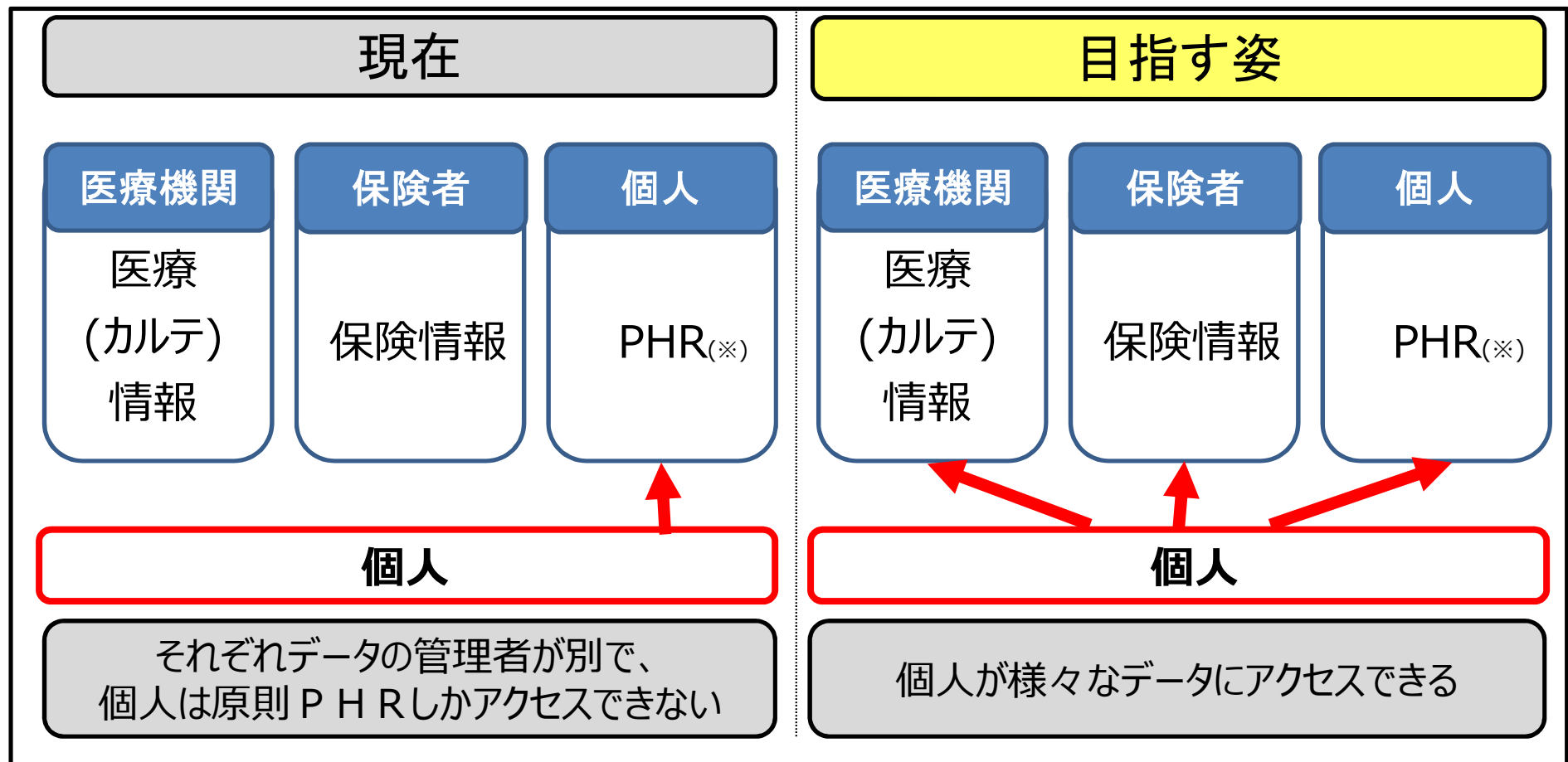
- 個人のライフログデータが医療機関、保険者等に分散しており、自己コントロールができないこと
- ビッグデータの利活用のルールが十分に確立していないこと

(※1) 日常生活で行われる日々の人間の行動をデジタルデータとして記録すること=PHRとも言う

(※2) 政府が運営するオンラインサービスで、マイナンバーを利用し、子育てや介護をはじめとする行政手続のワンストップ化や、行政機関からのお知らせを確認することができる

提案の具体化

- 個人が自分自身の情報にアクセスし、自己管理に役立てるためのルールづくり

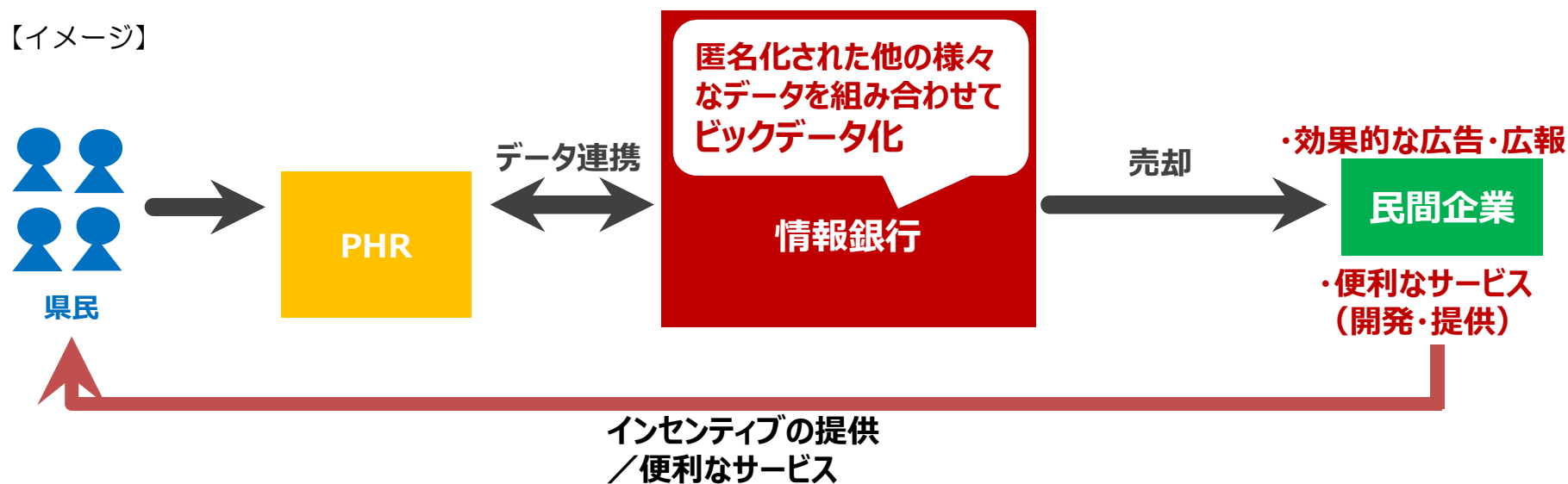


(※) Personal Health Recordの略称。個人が自らの医療・健康情報を収集し一元的に保存する仕組み

提案の具体化

- ライフログデータを、自治体が地域課題の解決に向けて活用するためのルールづくり
- 情報銀行とPHRのデータを連携し、個人の健康データの提供を行う者に対するインセンティブや便利なサービス提供などによる新たな社会システムの構築

【イメージ】



未病改善に向け、「健康データ」を活用

次期計画における記載案

個人の行動変容を促すため、自身の健康に関する様々なデータにアクセスできる環境整備が重要になっている。

また、ライフログデータを、地域課題の解決や、商品・サービスの開発促進に活用する等

データを社会全体で利活用するための新たな仕組みづくりが必要である。

3 ME-BYO Conditioning Center(仮称) の創設

本県のこれまでの取組

○未病センターの設置

手軽に健康状態や体力等をチェックし、結果に基づきアドバイスを受けられる場



○未病改善の拠点施設「ビオトピア」の設置

子どもから大人まで全世代が楽しく「未病の改善」体験ができる施設

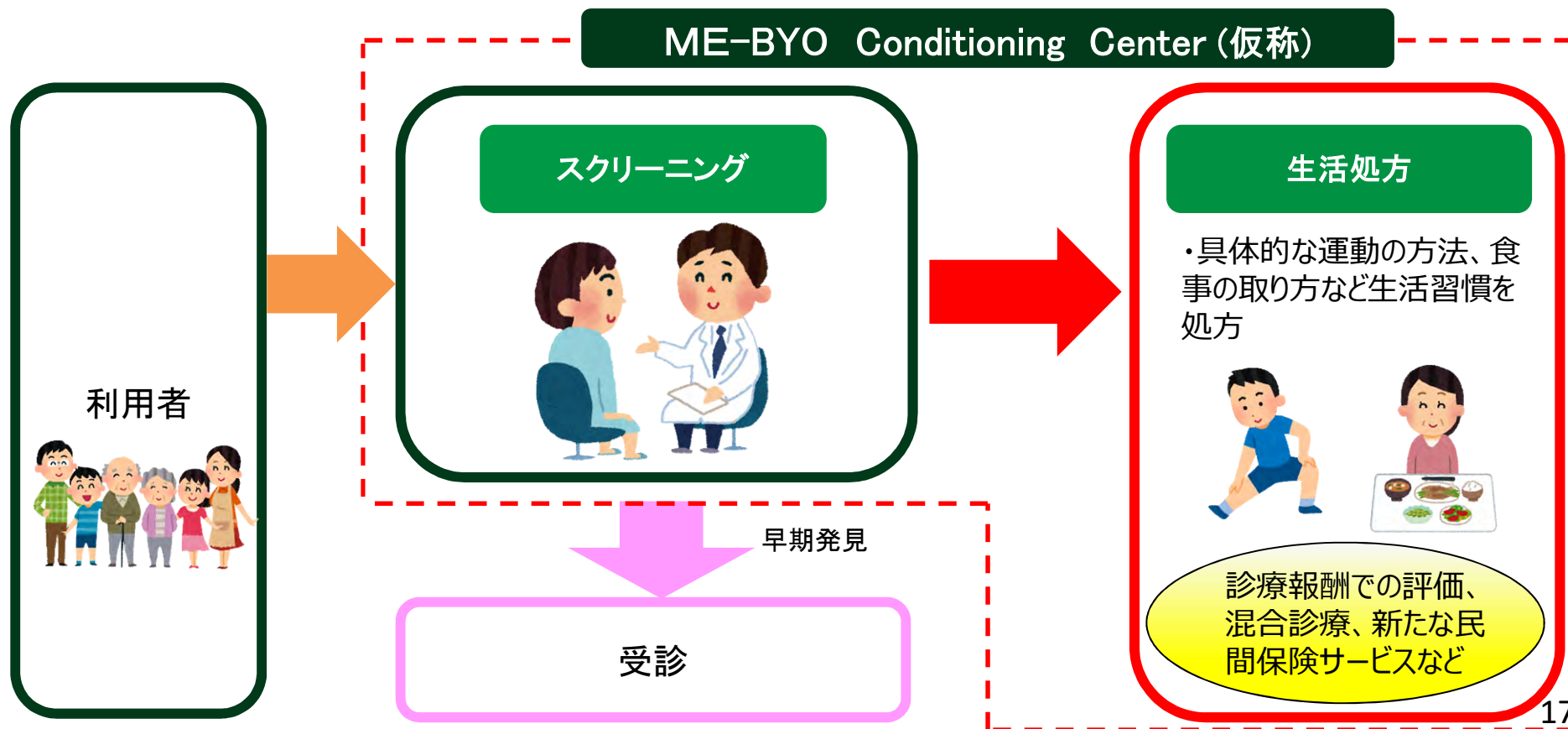


課題

- 専門家が未病状態から関与することで、未病の改善が可能となるよう一貫したシステムや体制が必要

提案の具体化

○運動、食事など生活処方に対する診療報酬での評価、混合診療、新たな民間保険サービスの活用等により、「ME-BYO Conditioning Center(仮称)」等、持続可能な社会システムとして構築



次期計画における記載案

地域において、住民が高齢期に至るまで健康で活躍できるよう、未病の状態においても専門家が適切に関わる**ME-BYO Conditioning Center(仮称)**等、持続可能な社会システムを構築することが必要である。その際は、専門家が適切な報酬を受けられる仕組みとする必要がある。